

2019年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	ルーラルデザイン小委員会	主 査 名：大沼正寛 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：山崎寿一
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・ルーラルベースドアーキテクチャ／デザインの研究ビジョンを構築する。 ・ルーラルデザインの価値創出、エリアの状況改善の可能性や課題について考察し、現代的潮流もふまえながらデザイン論・計画論の導出をめざす。 初年度：年 3 回（予備 1、本会 2）の研究会開催。関東・関西・現地で各 1 回。 2 年度：年 3 回（予備 1、本会 2）の研究会を開催。 3 年度：年 3 回（予備 1、本会 2）の研究会、大会 PD を企画実施。 4 年度：3 年度に準じた活動と研究会を行い、発信活動につなげる。	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有	
	主査：①大沼正寛（東北工業大学） 幹事：②平田隆行（和歌山大学）、③三笠友洋（西日本工業大学） 委員：④山崎寿一（神戸大）、⑤宮崎篤徳（関西大）、⑥下田元毅（阪大）、⑦稲地秀介（摂南大）、⑧佐藤圭一（福山大）、⑨池ノ上真一（北大）、⑩魚谷繁礼（建築家）、⑪菅原香織（秋美大）、⑫阿部正（建築家）、⑬津村泰範（長岡造形大）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2019年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. 2019年度農村計画委員会秋季学術研究会「集まりカタ・関わりカタのデザイン — 農山漁村における集落形態の変容へのまなざし」（農村地域づくり小委員会と共同） 参加者数 40名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 研究ビジョン「RUBBAR（地域に根ざし地域をつくる建築）」を共創した。 2. コサージュエイ（RUBBARコサージュエイ@能登，参加者数20名）、秋期学術研究会（「集まりカタ・関わりカタのデザイン — 農山漁村における集落形態の変容へのまなざし」農村地域づくり小委員会と共同，参加者数40名，「同上 報告書」下田・宮崎・林・松井・山本 編，2019.12）を行った。 3. 2020年度に大会PDを企画する段階にまで漕ぎつけた。
委員会活動の問題点・課題	1. 農村集落調査系の視点共有については一定の議論が深まっているが、いわゆる建築デザイン論との論点検討が遅れている。 2. RUBBARの事例評価軸に定まっていない面があり、会議がやや不足している面がある。 3. その結果、重要参照資料集（例RUBBARアトラス）の草案作成には至っていないことから、2020年度は大会PDの企画運営を通して研究を前進させたい。